



(資料)

## 日本の NDC (国が決定する貢献)

編集委員会

2020年3月30日、官邸の地球温暖化対策推進本部（本部長：内閣総理大臣，副本部長：内閣官房長官，環境大臣，経済産業大臣，本部員：その

他のすべての国務大臣）は、国連の気候変動枠組条約（UN FCCC）に提出する日本の NDC（国が決定する貢献）を決定した。

### 日本の NDC（国が決定する貢献）の提出について

我が国は、2015年7月17日に約束草案を国連気候変動枠組条約事務局に提出した。その削減目標を確実に達成するとともに、それにとどまることなく削減努力を追求することで、パリ協定の目標の達成により野心的に貢献する観点から、NDCを提出する。

### 日本の NDC（国が決定する貢献）

(INDC からの行動と実績のアップデート)

- 我が国は、約束草案の提出後、2016年5月に削減目標の達成を裏付ける具体的な対策・施策等を定めた「地球温暖化対策計画」を策定するとともに、毎年度その進捗状況についてフォローアップを実施し、取組を着実に進めている。  
これは、「行動重視」の我が国の姿勢を示す取組である。
- 足元の削減実績では、2014年以来、4年連続（速報値では5年連続）で温室効果ガスを削減しており、その間、合計で8%を超える削減（速報値では約12%）を達成することで、世界の温室効果ガス削減に貢献している。
- また、長期的には、2019年6月に「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」を国連気候変動枠組条約事務局へ提出した。この戦略において、「環境と成長の好循環」という基本的考え方のもと、今世紀後半のできるだけ早期に「脱炭素社会」を実現することを目指す方針を決定した。人工光合成をはじめとする CCUS 技術や水素社会の実現など非連続なイノベーションの実現を通じて、2050年にできるだけ近い時期に「脱炭素社会」を実現できるよう努力していく。

(削減目標)

- 我が国は、2030年度に2013年度比▲26%（2005年度比▲25.4%）の水準にする削減目標を確実に達成することを目指す。
- また、我が国は、この水準にとどまることなく、中期・長期の両面で温室効果ガスの更なる削減努力を追求していく。
- これに基づき、地球温暖化対策計画の見直しに着手し、パリ協定及び関連する CMA 決定に基づき、明確性、透明性及び理解のために必要な情報を、計画の見直しの後に提出する。
- 加えて、NDCの削減目標の検討は、エネルギーミックスの改定と整合的に、温室効果ガス全体に関する対策・施策を積み上げ、更なる野心的な削減努力を反映した意欲的な数値を目指し、次回のパリ協定上の5年ごとの提出期限を待つことなく実施するとともに、提出期限に伴う NDC の提出は、直近のエネルギーミックスに整合した NDC を提出するものとする。